きょうとネット講演　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2009/10/27

望田幸男

「核廃絶の道」の探究

―NPT再検討会議にむけて―

＜はじめに＞

* NPT（核兵器不拡散条約）：核兵器保有を米ロ英仏中にだけ認める

　　　　この条約に関する会議が、なぜ核兵器廃絶の世界的焦点なのか？

* 核兵器廃絶への多様な道
1. 核兵器不拡散条約の歩み

○　１９７０年に発効（９５年に無期限延長）

○　二つの側面：核不拡散と核軍縮（disarmament：reduction・abolition）

＜２＞情勢の変化

○　９１年、冷戦終わり、核兵器保有　の「口実」なくなる

○　不拡散体制の破たん＜＝＝非加盟国（インド・パキスタン・イスラエル・北朝鮮）

○　非同盟諸国の増大：加盟国＝１８７（非同盟＝１１８）

1. 新アジェンダ連合の活躍――２０００年と２００５年の再検討会議

○　スウェーデン、アイルランド、南アフリカ、ニュージランド、メキシコ、ブラジル、

エジプト、（スロベニア）

○　１９９８年「核兵器のない世界へ――新たな課題（新アジェンダ）の必要性」発す

○　２０００年の再検討会議で、核保有諸国が核兵器廃絶の約束

　　　　　　　　　　　（新アジェンダ連合の論理：「核不拡散のために核廃絶へ」）

○　２００５年の再検討会議は、ブッシュの対テロ先制核使用論のため決裂

＜４＞２０１０年NPT再検討会議と核兵器廃絶への多様な道

* 「ことば」を現実へ

オバマ大統領発言、鳩山新政権の非核三原則・北東アジア非核兵器地帯

* 核兵器廃絶への多様な道

・二つの土俵（相手とわれわれ）

　　　　・五つのレベル（世界、地域、国、ローカル、個人）

　　　　・三つの領域（廃絶、実験停止・削減、不使用）

　　　　・四つの形（集会、デモ、署名、カンパ）